

## 社員の幸福が、社会への貢献・会社の業績に繋がる

### 伊藤建設工業株式会社 (秋田県横手市)

#### ■地域と社員に支えられ、創業70周年

秋田県横手市の伊藤建設工業株式会社は、今年で創業70周年を迎える県内でも有数の規模を誇る総合建設業の会社である。営業種目は20にのぼり、県南地域および秋田市を中心として県内外で幅広い工事に携わっている。

このような多様な工事への対応を可能にしているのは、同社に在籍するベテランから若手までの技術者たちである。その多くが主要資格を取得しており、優良工事表彰を数多く受賞するなど、顧客満足度の高い仕事ぶりも評価されている。高い資格取得率を可能にする当社の人材育成の仕組みや、創業以来受け継がれる目指すべき社員像などについて、7代目社長の中村清昭氏にうかがった。



代表取締役社長 中村 清昭 氏

#### ■転換点～同族経営からの脱却～

当社は、戦後間もない1946(昭和21)年、地元(旧十文字町)出身の創業者・伊藤喜之助氏が設立した。伊藤氏が積極的な設備投資により事業を拡大した後、同氏の娘婿である篠原努氏が2代目社長を引き継いだ。篠原氏は、計数管理を導入して組織運営や経営手法を見直し、当社が抱えていた多額の不良債権の処理を15年かけて成し遂げるなど、当社の基礎固めを行った。そして、篠原氏の英断により、3代目の社長以降はプロパー社員から登用されることとなった。

現在の中村社長自身も、土木現場からのたたき上げである。現場監督を25年勤め、営業を経て、経営に携わった。「当初は、現場にいた頃とは立場が異なりとまどうことも多かったが、今となれば、自身の

現場時代の経験のおかげで、社員の気持ちを十分に理解しているという自負を持って経営に取り組むことができている」という。創業者が事業拡大し、2代目が基礎固めを行った当社は、その後、会社が育てた社員たちの手によって成長してきた。



クリーンプラザよこて JV建築工事  
2016(平成28)年3月竣工

#### ■教育訓練計画の運用が社員教育の要

対応できる工事の幅を拡げ、仕事量を増やす上では、社員の資格取得が欠かせない。当社では、交通費や受験料など資格取得に掛かる費用をすべて会社が負担してバックアップするとともに、部署ごとに立てた教育訓練計画に基づいて、社員の資格取得を後押ししている。

教育訓練計画は個人の経験年数や担当業務などを考慮して立てられており、これに基づいて、会社が必要とする資格に段階的に挑戦していく仕組みとなっている。受験が近づくときに必要に応じて業務量を調整することもあり、現場においても社員が資格取得に挑戦しやすい雰囲気が定着している。また、社外の講習会などへ社員を派遣する場合には、提出された報告書から上司がその成果を判断し、計画にフィードバックする仕組みになっている。この教育訓練計画が効果的に運用されていることによって、社員一人一人のスキルアップが可能となっている。

#### ■社外の技術や知識を取り入れる

当社では、各種講習会やセミナーにも積極的に社員を派遣している。社内における教育には限界があり、それを外部教育で補う必要があると考えているからだ。社長は、「次の仕事につなげるためには、顧客満足度の高い仕事をしなければならない。そのためには、相手の要望を引き出し提案するといったコミュニケーション能力が不可欠だが、社内教育で身に付けるには限界がある」という。当社では、社内での教育にも力を注いでいるが、その成果に満足することなく、外部の技術や知識を積極的に取り入れ、人材育成に取り組んでいる。

#### ■安定した人材確保に努める

少子化の進行に加え、市内の工業高校が普通科高校と再編され専門技術を学ぶ学生が減少するなど、地域の採用環境は厳しい。当社では地元の高校とのつながりを大切に、インターンシップの受け入れにも積極的だが、それでも人材確保は容易ではない。

新たな試みとして、今年、女性技術者1名を採用した。評価としては、「採用にあたっては職種柄不安もあったが、志のある本人の頑張りや明るくなった現場の雰囲気をみて好感触を得ている」といい、試行錯誤のところはありながらも、今後の採用について前向きに検討していくということである。

社長は「インターンシップを通じて、ものづくりの楽しさや建設業の醍醐味を伝え、この仕事を志す人を増やしたい」と語る。会社の存続・成長のためには安定した採用を途切れさせないことが重要だ。当社のためにも、地域の建設業のためにも、将来の担い手を増やす地道な活動が必要となっている。



インターンシップ 測量教育

#### ■社員の幸福を第一に考える

当社の経営理念は「社会、会社、社員の三つの『社』にバランスよく貢献する」ことである。しかし社長は、「自分自身の気持ちの中では、『社員・社会・会社』の順序だと思っている」という。社員を最初に掲げるのは、「社員の幸福なくして企業の存続はな

い」との思いがあるからだ。

競争の激しい業界で会社が仕事を得ていくためには、社会に評価され、また社会に貢献できるような仕事ぶりが求められる。その実現には、社員の技術力や知識に加え、仕事に対する高いモチベーションが欠かせない。

社長の「企業は人なり、組織は人にあり。会社を測るのは、規模でも売上高でもなく、人だ。社員の育成に心血を注ぐとともに、社員が安心して働けるよう努めていきたい。社員が幸福であることこそが、社会への貢献、会社の業績に繋がる」との考えは、当社の教育方針そのものといえる。



創立70周年記念 集合写真

#### ■失敗を恐れず挑戦し、道を拓く

「会社に育ててもらった」と自身を振り返る社長が社員たちに望むのは、「失敗を恐れずに、何にでも挑戦すること」だという。社長は、「社員には、先輩社員の姿を見習って、人の後ろを歩くのではなく、前に出て他の社員を引っ張っていくようなリーダーシップを発揮する人材に育ってほしい」といい、そうした社員を育てることが自身の使命であると語る。

創業者から受け継がれる当社の社長訓には、「社員は和合一致し旺盛なる建設精神に徹すべし」とある。技術と知識を備え、ものづくりの楽しさを知る社員たちが、チャレンジ精神をもって仕事に取り組んでいることが、当社の強みとなっている。

(フィデア総合研究所 佐藤美里)

#### 伊藤建設工業株式会社

代表取締役社長 中村 清昭

本社：秋田県横手市大町5番19号

創立：1946(昭和21)年10月25日

業種：総合建設業 従業員数：85名